

所管事務調査の報告

総務文教・産業建設常任委員会
「有害鳥獣処理施設視察報告」

有害鳥獣処理施設について総務文教・産業建設常任委員会合同での所管事務調査が終了しましたので報告いたします。

町内の有害鳥獣の捕獲頭数が年々増加し、現場埋設にも限界が生じたことから、処理施設の建設が計画されており、より良い処理施設の建設に向け、有害鳥獣の処理先進地での視察研修を実施したものです。

去る8月4日、執行部より農林建設課長に同行いただき、近隣の村田町、川崎町の有害鳥獣処理施設について研修を行い、両町の各担当者から詳しく丁寧な説明をして頂きました。

まず、村田町は減容化処理施設を平成31年に竣工しており、捕獲した猪を機械に投入し発酵分解するというもので、処理方法としては埋設処理や解体処理と比較し作業負担などの軽減が感じられました。

次に、川崎町の処理施設は平成29年に竣工しており簡易的で駆除したイノシシを処理場で袋詰めし、冷凍保管、仙南クリーンセンターで処分してもらうとのことです。両町の処理施設内は衛生的で整理整頓されておりましたが、多少の悪臭が感じられました。

どちらの施設を建設する場合であっても、設置場所については、環境面、電気、上水道、車両乗り入れの道路などに十分な配慮のうえ、慎重に行うべきであります。

本町の有害鳥獣駆除隊の負担軽減の為にも、有害鳥獣施設の建設は、早急に進めていただきたいことを申し添え報告といたします。

総務文教常任委員会 委員長 吉田 修
産業建設常任委員会 委員長 梅津 政志



▲川崎町鳥獣害解体処理施設



▲村田町鳥獣害発酵減容化処理施設

問

異常気象による防災対策は万全か

答

関係機関との連携や住民の意識向上に努めたい

問 異常気象が現実視される中、被害頻度の多い場所など、町独自の調査確認が必要では。

答 災害リスクの高い場所を想定し事前に点検を行ってきた。これからも確実に実施して行きたい。

問 線状降水帯によるゲリラ豪雨被害の発生が危惧されるが町内の側溝点検への対応は。

答 委託している土木作業員が定期的に見回り側溝の点検をしている。時間雨量が100〜200ミリの対応は、いち早く非難誘導を選択したい。



問 立木の伐採届け時の許可申請条件に防災対策は含まれているのか。

答 届け出の内容は七ヶ宿町森林整備計画と整合性が取れていることが条件。山地災害防止機能などを考慮し、現地確認をして適合通知書を発行している。

問

近年、全国各地で大きな災害が発生しているが、ハザードマップの再確認調査など行っているのか。

答

現在、「防災マップ」と「ハザードマップ」の2種類が発行されている。土砂災害区域は県が計画的に調査をし、市町村の意見も加え指定されている。

※「防災マップ」
土砂災害区域と避難所を示したマップ
※「ハザードマップ」
蔵王山火山に備えたマップ



▲七ヶ宿の防災マップ

問

災害を未然に防ぐ為、消防団や行政区、社会福祉協議会などへの対応は。

答 これまでと同様、引き続き連携を密にし、防災意識の向上に努めていく。

問

関自治会では自主防災組織をつくり、マニュアル、備品等を備蓄しているが、他地区はどのようなになっているのか。

答 今後、各地区でも自主防災組織の立ち上げを進め、積極的に支援をしていく。



▲湯原自主防災組織



吉田 修 議員